
幹部

ご挨拶

学長 平林春行



新年明けましておめでとうございます。同窓生の皆様におかれましては新型コロナウイルス禍ではありますが、いかがお過ごしでしょうか。くれぐれもご自愛ください。

また、日頃何かと本学教育にご支援とご協力を賜り厚く御礼を申し上げますとともに、昨年と同様に本年もよろしくお願い申し上げます。

令和二年度も昨年度に引き続き、学生生活がより豊かになるように環境整備に取り組んでおり、図書館の設置場所変更に伴うリニューアル化や学内ライトのLED化を終え、学内トイレの第三次改修工事（ウォシュレット装置付き様式トイレ、手洗い水の温水化など）を予定しているところです。

次に、今年度から看護学専攻とリハビリテーション学専攻作業療法学課程の定員を10名ずつ、100名と30名に増やしました。しかしながら、現「国際人間学専攻」を、諸般の事情により令和3年3月の卒業生の送り出しをもって幕を閉じることといたしました。

本学は今年度で創立から二十三年を数えることとなります。多くの短期大学の中でも大変若い短期大学ですが、西大和学園中学校高等学校や大和大学とともに、これから歴史を重ね多くの卒業生を輩出し社会に貢献して行きたいと思っております。

ところで、みなさんご承知かも知れませんが今後十八歳人口が急激に減少して行き、およそ十年後には現在の三分の二ほどになるということですから、多くの短期大学や大学を始め多くの高等教育を行う学校が消えていくことになります。つまり、（新年早々に暗い話をして恐縮ですが、）学校にとって大恐慌時代に突入して行っていると言っても過言ではないと思っております。

しかしながら、そのような状況に入ってきていますが、私たちの白鳳短期大学は入学したいと思う志願生の多くから選ばれ支持される短期大学にならなければなりませんし、同窓生のみなさんの母校が無くなってしまいうことは絶対にあってはなりません。その為には、他の四年制大学や専門学校等の他の学校には無い、本学独自のものを一層持たなければならないと考えております。

同窓生のみなさん、本学の魅力は何だと思われませんか。また、これからの白鳳短大には何が必要だと思われませんか。改めて同窓生の皆さんにご意見をいただきたいと思っております。そのようなご意見を大切に受け止め、形にして行かれるように一層努力してまいりたいと思っております。今後とも、同窓会にご支援とご協力をいただきますとともに、ご意見と激励のお言葉をいただけましたら幸甚に存じます。よろしくお願いいたします。

ごあいさつ

副学長 中山 智子

白鳳短期大学同窓生の皆様におかれましては、益々お元気でご活躍のことと思います。

卒業生の皆様におかれましては、今年(感染症拡大)の中、福祉、教育、医療、看護に全力で取り組む姿が目に見えてきます。

これらの環境は、人間が自然界との付き合い方を変えるよう、自然からのメッセージを受けているようにも感じます。

このような環境の中、学校生活、講義におきましては、感染対策を徹底しながら前期リモートや対面授業、後期においては対面授業を中心に進んでいます。在学生とともに、環境とは、人間とはについて追究していくことの重要性を再認識しています。

本校の教育として、人間力を中心に考える力を重要とし「ライセンス習得」の目標に向かって在学生は、日々努力をしています。

わたくしたち教育者は、「常に、教育になったか？」を考えることを積極的に継続したいと考えます。この考えをもとにクリティカルに考える力を養い、社会に貢献できる教育を目標として進んでまいります。

環境がととのった後には、ぜひ人生の先輩として在学生に語り掛けに来ていただけますでしょうか。

また、卒業生の皆様が、母校に帰り教育者として一緒に教育できる日を心待ちにしております。

皆様方のご健康と益々の御発展を心より祈っております。



同窓会会長挨拶

こども教育専攻卒業 同窓会会長 松村莉子

白鳳短期大学同窓会の会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のことと、お慶び申し上げます。また、平素は同窓会活動に深いご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

今年度、同窓会会長を務めさせていただきます松村莉子と申します。現在は、吹田市にある大和大学に白鳳短期大学から初めての編入生として在籍しております。

4月当初は、新型コロナウイルス対策として対面での授業が難しかったため、リモートでの授業が7月頃まで続きました。そのため、実際の授業形態がどのようなものかも分からず、対面授業になった際、ついていけるかなどの不安が募る日々でした。

しかし、担任の先生をはじめ大和大学の教員の方々は親身に接して下さり、授業のことだけでなく、教育実習や教員採用試験対策についても手厚くサポートして下さるので不安など忘れ、自分の夢に向かい熱心に勉学に励むことができています。

また、同じクラスになった同級生や先輩の方々も大和大学について様々なことを教えて下さるので、1日1日を充実して過ごすことができています。

白鳳短期大学での2年、大和大学での2年で学んだことを生かし、教員採用試験合格に向けてこれから頑張っていきたいと思っています。

もうすぐ、編入し1年が経ちます。4回生になり、実習や教員採用試験などがあり、いろいろなことがあるとは思いますが、小学校教員になりたいという夢を目標に、日々精進してまいりたいと思います。

末筆ながら、同窓会会員の皆様のご活躍、ご健勝と母校白鳳短期大学の益々の発展をお祈り申し上げます。



連携校

大和大学

駅近ワンキャンパス総合大学へ。2021年4月「社会学部」開設！

2023年には情報学部を開設構想中。

JR大阪駅から9分、吹田駅下車すぐという関西で最もアクセスに恵まれた環境に開学した大和大学。「教育学部」、「保健医療学部」の2学部からスタートし、2016年には政治と経済を横断的に学ぶ西日本唯一の「政治経済学部」を開設しました。2020年4月には「理工学部」を新設。数理科学、機械工学、電気電子工学、情報科学、建築学の5分野で未来を創造していきます。さらに、2021年4月には社会学部を開設。現代社会学コース、メディア情報学コース、社会心理学コースの3コースを設置するとともに最新設備が整う学部棟を新たに建設。キャンパスの大幅拡張工事も同時に行われています。

加えて、2023年にはAI時代に対応できる人材育成をめざす「情報学部」を開設構想中。驚異的なスピードで進化を続ける大和大学にご注目いただくとともに、いっそうのご声援を賜りますようお願いいたします。



西大和学園中学校・高等学校

西大和学園では、1990年に初めて東京大学に合格してから、年々合格者が増え、2018年に30名進学、昨年42名、そして今年は理Ⅲ3名（現役）を含む53名が進学。京都大学にも52名が進学、東大、京大で50名を越えている高校は、関西の学校だとはいえ、全国でも西大和学園しかない。

西大和学園は1986年、「次代のリーダーになる人材を奈良から輩出したい」という創始者田野瀬良太郎先生の思いで設立された。現在は関西一円、全国、海外からも「西大和学園で学びたい」と志望する生徒が増えている。

さらに、西大和学園には「難関大学をめざす進学校」と表現するだけでは惜しい独自の学びがある。創立当初から、国際理解教育、学校行事、体験学習が多彩で生徒たちが自主的に取り組んでいる。その延長線上に2002年のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定、2014年にスーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定があり生徒が独自でテーマを探し、研究し専門的スキルやマインドを習得する学びのスタイルが確立している。SGHをさらに進化させたイノベーション創発人材を育成する刺激的なキャリア教育「アクションイノベーションプログラム（AIP）」も始動。

模擬国連では全国大会出場を重ね、数年前に優秀賞を受賞した世界大会出場を再び実現しようとしている。

進学だけでは激変する社会に対応できない。真の実力を育てるために次を見据え、新しい改革もどんどん打ち出していく。

6年前に中学も共学化し、今年の進学実績には、共学化1期生の女子パワーも貢献した。女子の頑張りに触発され、男子もさらに頑張った。「東大・京大・国公医コース」の高等部も東大現役合格13名と過去最高の頑張りを見せ、それぞれの環境で成長した生徒たちの頑張りが結実し、今春の進学実績となった。

全国屈指の大学合格実績を支える、未来のリーダー育成のための自発的学び、進学実績と先進的な学びを両立させる、それが西大和学園だ。



西大和学園カリフォルニア校

白鳳短期大学同窓生の皆さん、こんにちは。白鳳短期大学の同窓生の活躍と大学の躍進ぶりを多くの先生方から聞くにつけ、遠く離れたロサンゼルスでも大変喜んでおります。

それではこの場をお借りして、私たちの学校 NAC (Nishiyamoto Academy of California) の近況について紹介させていただきます。本校は、創立 28 年目のアメリカ西海岸唯一の文部科学省認定の「私立全日制日本人学校」です。学校はロサンゼルス空港から車で南に 40 分の距離です。ここロサンゼルスの日本人コミュニティでは、知らない人がいないまでに成長し、当地における日本人教育の一翼を担っております。この地域は日本人がとても多く在校生のほとんどがこの地域の日系企業の駐在員の子どもたちです。幼稚園、小学校、中学校の 13 学年で約 120 人の子どもたちが在籍しております。また 2002 年より土曜補習校を開校し、当初 6 名だった子どもたちが、この 4 月には約 700 名になり全日制、土曜補習校合わせ 820 名にも迫る大所帯になり、学校全体が活気に満ち溢れています。また、8 年前にサンノゼ（シリコンバレー）地域にも幼稚園が開園しました。NAC では、子供たちの個性を伸ばし、豊かな人間性と感性を育み、思いやりのある真の国際人の育成を目指すことを教育目標として取り組んでおります。また、NAC は海外教育センターを併設しており、白鳳短期大学の学生の皆さんの海外研修プログラムの企画に携わり、また、研修地でもございます。創立当初より、白鳳短期大学と深い関わり合いを持ち続けております。感染対策が落ち着き、早く研修が再開できることを願っております。

これからもこのカリフォルニアで、日本の白鳳短期大学の同窓生および現役学生の皆さんに負けないようにがんばる子供たちを育てていきたいと思っておりますので、白鳳短期大学の皆様方には、今後とも暖かいご支援とご声援を賜りますよう、何卒、宜しくお願い申し上げます。



専攻長

卒業生の皆さんへ

国際人間学専攻 専攻長 辻田真智子

卒業生のみなさん、お久しぶりです。お元気ですか。2020年はとにかく新型コロナウイルスに振り回された1年となりましたね。

みなさんの職場でも、今年の初めまで活況だったインバウンド需要が急激に落ち込み、技能実習生の来日もストップし、大きな打撃があったのではないかと思います。

しかし、いつまでもこの状況が続くわけではありません。大事なのは、次にまた日本と皆さんの国との行き来が可能になったときにどのように動けるかです。今はそれに備えて準備を整えておいてくださいね。

母国を離れ、日本に留学し、その後も日本やその他の国で働いていたたり、国に帰っても国際的な仕事をしたりしているバイタリティ溢れるみなさんなら、どんな状況であってもきっと臨機応変にこの危機を乗り越えているのではないかと思います。

今年度をもって国際人間学専攻は閉じることになりますが、卒業生のみなさんが白鳳（女子）短期大学国際人間学専攻で培った日本語力、コミュニケーション力、異文化理解力、または人脈を大いに生かし、世界中で活躍し続けてくれることを願っています。

またいつか世界のどこかで会いましょう。



卒業生の皆さんへ

こども教育専攻 専攻長 西川 幸利



本年度よりこども教育専攻の専攻長に就任しました西川幸利と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

卒業生の皆さん、元気に活躍されていますか。今年はコロナ感染症の影響で、世界中が翻弄されており、皆さんの職場にも多大な影響を及ぼしていることと思います。

さて、こども教育専攻は前専攻長西浦先生の教育方針を引き継ぎつつ、進化・発展しております。年々、小学校教諭免許取得希望者や4年制大学編入希望者も増え、来年度からは「4年制大学編入コース」を設け、新たな取り組みも始めます。教育内容も実践型演習を取り入れ、より現場で役立つ力を身につけられる講義を設けております。

これからも白鳳短期大学は優秀な保育者を育成し、社会に貢献できるよう頑張ります。

本学の学生が、皆さんの園に実習に行った際にはよろしくお願いいたします。

大学の近くに来られた際には、是非、お立ち寄りください。皆さんの元気な笑顔を拝見できることを楽しみにしております。

卒業生の皆さんへ

看護学専攻 専攻長

専攻科助産学 専攻科長 諸喜田 美恵

白鳳短期大学同窓生の皆様、お元気でお過ごしでしょうか。卒業生の皆様、そしてご家族の皆様は、現在様々な形で医療の現場を支えておられると思います。心身の緊張の連続の中、献身的に医療に従事されていることに心より敬意を表し感謝申し上げます。

卒業生の皆様が活躍されている近況報告が多くの施設様から届いております。それぞれの現場で、看護師・助産師のプロとして成長しておられる様子がうかがえました。看護学・助産学基礎教育で学ばれたことを活かし看護活動をされていることを誇りに思いました。

白鳳短期大学の教員はこれからも「人間力」と「看護を考える力」を学生とともに探究し、皆様に続く後輩を育成していきたいと考えます。母校を懐かしく思い出していただけましたら、ぜひ学校に立ち寄っていただき後輩達に看護を語りに来ていただけたらと思います。

教員一同楽しみに待っております。



卒業生の皆さんへ

リハビリテーション学専攻 理学療法学課程 専攻長 高橋秀行



卒業生のみなさん、元気に過ごしていますか。今年度は Covid-19 の影響により、日本全体が感染予防をベースとした生活スタイルに変わり、多くの変化に対応した 1 年になったのではないのでしょうか。医療現場においては、感染予防を徹底した中での理学療法が展開され、日々神経を尖らせた毎日だったことだと思われま。私たち教育現場においても、オンライン授業という新しいシステムが取り入れられ、慣れない環境に試行錯誤した年になりました。

しかしコロナ禍の一年を振り返ると、それまで何気なく行ってきたことに対する有難さや感動に気付かされ、ヒトとして何が本質として大切なのかを感じ取れたようにも思います。Covid-19 が終息した時、以前よりも更に成長した自分になれるよう、今できることを胸に日々前進していきたいと思います。

みなさんも健康を第一に、医療・介護の現場での更なる活躍を願っています。

卒業生の皆さんへ

リハビリテーション学専攻 作業療法学課程 専攻長 西井正樹

白鳳短期大学同窓生の皆さまにおかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。作業療法学課程を設置してから 5 年が経ちました。また、専攻科作業療法も 2 期生が卒業となりました。

作業療法学課程では、定員が 20 名から 30 名と増員になり、ますます発展しています。実習訪問などで卒業生に会う機会も多くなりました。皆さんの作業療法を見る機会もあり、白鳳短期大学で学んだ白鳳イズムを継承しているのだと感心しています。

卒業生の皆様にとっては母校ですから、いつでも学校に遊びに来てください。いろいろな相談にも乗りますよ。



白鳳短期大学で学んだ心を大切に、これからも活躍してってください。

卒業生の皆さんへ

専攻科リハビリテーション学専攻 言語聴覚学課程 専攻科長 成田亜希



みんな、元気になっていますか？ 在学生在が実習等でお世話になっております。後輩育成のため一生懸命に指導をしてくれている姿には感動します。ありがとうございます。これからもよろしくお願い致します。

今年度はコロナ禍で、よりリスク管理が問われるスタートだったと思います。多くの卒業生から話を聞き、医療従事者としての素晴らしい姿勢を学ばせて頂きました。

学校の方も新年度スタート時は、課題学習やオンライン授業でした。慣れない環境で不安になる学生、学習ペースがつかめない学生、オンライン授業用の講義準備をする教員、今までにはない学校生活でした。現在は対面授業に戻り、臨床実習も再開し、通常の学びに戻りました。

是非在学生のところに来て、臨床の話をたくさんしてあげてください。卒業生が学校に来てくれることが一番嬉しいです。

今年の卒業生へ もうたくさんの患者様を担当させて頂いていますよね。「早くいい治療ができるようになりたい！」と焦っているでしょうね。まずは先輩のマネをして下さい。答えはそこにあります！「患者様のために」ではなく、「患者様と共に」歩んで下さいね。

卒業生の皆さんへ

専攻科地域看護学専攻 専攻科長 啜 素代

2020年は新興感染症の流行によって私たちの専門分野である「公衆衛生」が注目される1年となりました。本学においても、緊急事態宣言下では、学生は在宅での課題学習、オンライン授業となりました。緊急事態宣言解除後、登校は再開されましたが、例年6月に実施していた地区踏査は7月に1日のみ、住民へのインタビューはなしという形で実施しました。9月以降の臨地実習（市町村実習・保健所実習）も、実際に臨地で実習できた日数は、市町村実習では1学生あたり4～7日、保健所実習では全学生が0日という状況でした。



この状況は公衆衛生を学ぶ全国の保健師学生に起こった状況ではありますが、学生たちは、新興感染症の流行によって公衆衛生が注目されたにも関わらず、その現場では実習ができないというジレンマに陥ることとなりました。しかしながら、臨地と学内を組み合わせた実習や学内のみで行う実習は、教員にとってあらためて実習の到達目標や臨地実習の意義を見直す機会となりました。臨地の保健師にも協力いただきながら、目標に到達できる実習方法を考え、臨地と学内で協力し合いながら実習を実施しました。その結果、臨地の保健師からは「例年どおりの学びが得られている」との評価をいただきました。

2021年3月に卒業する全国の保健師学生は、「コロナ世代」と呼ばれる保健師となります。臨地での実習経験がまったくない、もしくは経験が少ない保健師です。しかしながら、臨地で実習できなかったからこそその学びをたくさんもっていますし、臨地のことをもっと知りたいという思いをもっています。2021年4月、みなさんの職場に入ってくる新卒保健師をどうか温かく見守ってあげてください。そして、新卒保健師も含め全国の保健師の力を結集して、公衆衛生を支えていきましょう。

卒業生

看護学専攻 榎木 智美

私は、看護学専攻を卒業したのち、専攻科の言語聴覚学過程に進み、今は神経筋難病・筋ジストロフィー・脳外科病棟に勤めております。

入職した頃は、自分の想像していた看護とは違い、また患者様との関わり方にも悩みました。一年目であり、患者様も不安な表情をされることや、時には「先輩と変わって」などの言葉を頂くこともありました。

慣れない環境でも、どんな時も笑顔を心掛け、少しの変化にも気づけるよう看護を行っていました。徐々に信頼も築けるようになり、夜勤の際は、「榎木さんが今夜勤か～嬉しいわ」や、「あなたは私の精神安定剤やわ」などの声をかけてもらい、ただ日々の看護だけをするのではなく、その中で信頼をも築いていくことの大切さを日々学んでいます。

また、呼吸器をつけて食事をされるため誤嚥リスクが高い患者さんが多いです。そこで、STの知識を活かした上で看護を考えることは、今一番やりがいを感じています。

これからも、誰からも信頼される視野の広い看護師になれるように頑張ります。



こども教育専攻 深瀬優理

私は4月から香芝市の公立保育所で二歳児の担任として働いています。複数担任なので17人の子どもを4人の保育士で受け持っています。毎日を過ごす中で少しずつ子どもとの信頼関係も築いていますが、まだまだわからないことばかりです。子ども一人一人の個性を理解し、その場に応じて臨機応変に関わることの難しさを感じています。これから努力していかなければならないことがたくさんありますが、今年度の経験を活かして来年度からも頑張っていきたいと思います。子どもに毎日が楽しいと思ってもらえるように活動を考えたり、環境をつくることができるようにしていきたいです。子どもの気持ちを受け止め、寄り添っていけるような保育士になりたいです。そして、子どもたちとの出会いや同じ先生方、地域の人との繋がりを大切にしていきたいと思います。



国際人間学専攻 LOW KAR YONG (マレーシア出身)

私は、今年四月に和歌山大学経済学部の三年生に編入し、楽しみにしていた大学生活を満喫しています。しかし、編入当初は、新型コロナウイルス感染症のため、授業がオンラインで行われることになり、新しい友達を作ったり、先生を知ったりすることが難しく、大学のこともあまりわからず、慌てました。そのため、最初はとても大変でしたが、今、半年が経ち、やっと大学生活もうまく軌道に乗ってきました。徐々に困難を乗り越え、目標に向かって努力しているところです。



私は、白鳳を卒業してから実感していることがあります。それは、他の大学と違い、白鳳の先生方はいつも私達留学生のことに関心を持ってきていたということです。編入してからは、どんな事情があっても、自分で解決しなければなりません。白鳳での二年間、先生方が私たちを支え続けてくださったことにとても感謝しています。

白鳳は私を成長させてくれただけでなく、白鳳で知り合った友達と先生方は家族のような存在となりました。白鳳での二年間は、本当に楽しくて幸せでした。

リハビリテーション学専攻 理学療法学課程 大谷朔

私は現在、大阪市生野区にある新大阪病院に勤めています。そこでは、維持期の病院であり、廃用症候群を伴った方々の理学療法を担当しています。

白鳳短期大学を卒業して早1年が経ちます。私はこの1年間、何度も思い出すことがあります。それは学校の先生から言われた「自分のいい所を出していくセラピストになってほしい。」という言葉です。在学中は自分自身がどのような人間であるか知ってもらう為に、私の長所である積極的に人と関わることを心掛けてやってきました。その甲斐があって、多くの親友ができ、人との繋がりを構築することができました。



就職してからも積極的にコミュニケーションをとることで、先輩から教えてもらったり、場の雰囲気が和んだり、面白くないことでも笑ってくれたりとは他職種のスタッフや患者様など多くの方々との関係性も築き上げることができました。その反面、弱点とする勉強面が課題として浮き彫りとなってきています。次はこの課題を克服し、「自分のいい所を出しながら成長し続けるセラピスト」になっていきたいと思っています。

白鳳短期大学を卒業してもうそろそろ一年が経とうとしています。たくさん勉強してきたつもりですが、臨床に出ると分からないこと・教科書通りには行かないことに多く直面させられ、戸惑いの多い毎日を送っています。

しかし、学校で学んだことが活かしている実感を感じないわけではありません。勉学についてはもちろんのこと、学生時代はただ楽しいだけだと思っていた作業体験が、より患者さんの生活を想像しやすくさせる要素になっていたり、疑問を追求してしまう私の性格に先生方がいつまでもいつまでも付き合ってくれたことが、現在患者さんに病状を説明出来ていることに繋がっています。患者さんへ寄り添う気持ち・真剣に向かい合う気持ちを最初に教えてくれたのも学校の先生方でした。



この様に3年間を通して学んだ作業療法を行うことで、患者さんが元気に退院される姿を拝見すると、胸が熱くなることがあります。まだまだ未熟ですが、私は心の支えとして白鳳短期大学での3年間を思い出しながら、これからも理想の作業療法士を目指します。

私は今、大阪の回復期の病院に務めています。

この半年で多くの患者さんに出会いました。「自分より先輩が担当した方が良くなったんじゃないか」と悩むこともありましたが、自分なりに白鳳短期大学で得た知識を活かして患者さんにより良くなって帰ってもらおうと精一杯頑張っています。

優しい先輩方に恵まれ、教科書や実習だけでは分からなかった事も教えて頂き、すこしは成長できていればいいなと思っています。



今、とある重症の患者さんを担当させて頂いています。一人では寝返りも難しいような状態ですが、とても明るく、私を逆に励ましてくれるような素敵な方です。私の今の目標は、その方と屋外歩行に行くことです。患者さんと二人三脚で成長し、信頼される理学療法士になりたいと思います。

専攻科リハビリテーション学専攻 作業療法学課程 平井千晴

私は現在、回復期病棟で働いており、脳梗塞や脳出血を発症された患者さんを中心に作業療法を行っています。実際に作業療法士として働いてみて、臨床は学生のときに想像していたよりもっと忙しく大変ですが、上司・先輩・同期に恵まれた環境で働くことができていると感じています。

専攻科ではいろいろなことを学びました。中でもいつも私が心がけているのは、患者さんがしたい作業や大切にしている作業を取り戻すために患者さんの「その人らしさ」を考えて関わることです。様々な疾患、症状、生活歴、背景、性格などたくさんの要素があり、「その人らしさ」を引き出すことは難しいときもありますが、その人にとって大切にしている作業が少しずつできるようになっているときや、できることが増えていく姿を見たときにやりがいを感じます。そのやりがいを感じられるからこそ、上手くいかないときや辛いときも頑張ることができます。これからも「その人らしさ」を大切に、作業療法士としてもっと成長していきたいと思っています。



専攻科リハビリテーション学専攻 言語聴覚学課程 桑名優花

私は現在、大阪府大東市にあるリハビリテーション病院で言語聴覚士として働いています。主に脳血管障害により失語症や高次脳機能障害等を呈した患者様のリハビリをさせて頂いています。

白鳳短期大学では、看護学専攻を経て言語聴覚学課程に進学しました。在学中の4年間で2つの学科を経た事で、それぞれの専門職種が持っている知識や技術は大きく異なっていること、同じ目標に向けて協力することの大切さを学びました。

臨床現場でも、病棟看護師とリハビリ職間での患者様の病態の捉え方が異なる事が多々あります。その際には患者様を取り巻くチームで相談し連携を取る事で、患者様の全体像を共有し、患者様にとって一番良い方法を考えながら、同じ目標に向かうことが出来ています。私は、看護師と言語聴覚士の双方を在学中に経験出来た事で、より多くの視点から患者様を捉える事が出来て、患者様の心身に寄り添ったリハビリが出来ていると感じています。



働き始めてからも学ぶことは多く、自分の知識や技術不足を痛感する日々ですが、職場の先輩方や患者様に支えられながら楽しく働く事が出来ています。これからも様々な疾患や障害を抱えた方と関わらせて頂く中で、どんな時も患者様の気持ちに寄り添い、困った時に頼ってもらえる言語聴覚士を目指していきたいです。

専攻科地域看護学専攻 福田温加

私は現在福岡県の病院で働いていて、さまざまな診療科の患者さんが来られる病棟で勤務しています。そして脳卒中や心不全、糖尿病、癌などといった疾患や人工透析を導入されている患者さんの看護について広く深く学んでいます。毎日たくさんの新しい知識と技術を学ばなければならず、辛いことも多いですが、充実した日々を過ごしています。服薬管理や食事制限を守れず疾患の急性増悪を引き起こし何度も繰り返し入退院される方も多く、自宅での生活背景を知ること、地域の特徴を知るとはとても大切なことだと実感しています。同時に在宅で出来るだけ長く生活できるようにするために保健指導をどのように行い、助言していくかとても難しいと感じています。



現在は看護師として働いていますが、今後地域の健康を支える保健師になりたいと考えています。ですので、今後も保健指導のスキルを磨き勉強に励んでいきたいと思えます。

精神的にも身体的にも大変な時期だとは思いますが、皆さんも楽しみを見つけ自分の体を大切にしながら前を向いて頑張っていきましょう。

専攻科助産学専攻 菅野 あんな

白鳳短期大学 専攻科助産学専攻を卒業し、もうすぐ1年が経とうとしています。

私は、現在、病院で助産師として働いています。日々、出産の現場に立ち会うことで、助産師としての責任ややりがいと同時に、生命の軌跡を強く感じています。

その中で、自分の無力さを感じることも多くあります。学生時代にもっと深くアセスメントをし、もっと学習しておけば、もう少し患者さんのお役に立てたのではないかと後悔することもあります。

私もこれからたくさんの経験をし、自分の理想とする助産師になれるよう努力していきます。同じ医療者として、一緒に頑張りましょう。

